

平成11年度 和歌山県文化功労賞

すぎ なか こういちろう
杉 中 浩一郎

住 所：和歌山県田辺市
出 身 地：和歌山県西牟婁郡中辺路町
生 年：大正11年

◎業績及び経歴

大正11年に西牟婁郡近野村(現中辺路町)に生まれる。

県立田辺中学校卒業後、昭和15年に慶應義塾大学経済学部に入學、次第に紀州の歴史や文化に関心をもち、民俗・歴史の研究を始めるも、昭和18年に学徒出陣で入隊する。

昭和21年に復員し、帰郷した氏は、関係者からの聞き取り調査や奥熊野に出向いての採訪に努めるなど民俗学研究に対する熱意はさらに強いものとなり、昭和24年に日本民俗学会会員となり、本格的な民俗研究に努める。

その後、昭和25年からは紀南地方の中学校において社会科教諭として教鞭を執りながらも、地方史や民俗学の研究にかける志は変わらず、紀南文化財研究会の運営や機関誌「くちくまの」及び郷土叢書の刊行、熊野古道沿線の5市町で設置する熊野路編さん委員会に参画し、「くまの文庫」の企画執筆活動を行うなど、精力的に研究活動を実践し、昭和56年には、氏のそれまでの紀南地域の民俗や歴史に関する論考をまとめた「紀南雑考」を私刊本として発表し、高い評価を受けた。

昭和59年から4年間、田辺市立図書館長として、郷土資料の収集・整理に努め、昭和62年からは、田辺市史編さん委員として地元の歴史を後世に伝えるべく尽力している。一方早くから、文化財の調査、研究、保存活動にも積極的に取り組み、県文化財審議会委員、田辺市文化財審議会委員、社団法人和歌山県文化財研究会理事、南方熊楠邸保存顕彰会理事等、数々の文化に関する委員・理事

を歴任し、紀南地方の文化財の研究や保存活動の中心的な役割を果たすなど、多方面にわたり、地域文化の振興に貢献した氏は、平成5年に田辺市文化賞を受賞する。

さらに、平成10年には、氏の熊野に関する歴史・民俗研究の集大成として「熊野の民俗と歴史」を著し、注目を集めている。

ふるさと和歌山に対する強い想いにより、幅広く地域文化の研究や顕彰に尽力してきた氏の功績は多大である。

■現在

紀南文化財研究会会長
田辺市史編さん委員長

■主な表彰歴等

平成5年 田辺市文化賞